

国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 山本 千寛

1. 日 時 令和6年6月13日 第5時限 13:45～14:30
2. 場 所 第5年2組教室
3. 学 年 ・ 組 第5学年2組(28名)
4. 単 元 名 「文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう」(光村図書)
- 教材文:「見立てる」野口廣
- 「言葉の意味が分かること」今井むつみ
- 「関係をとらえよう 原因と結果」

5. 単 元 目 標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。【(1)カ】 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。【(2)ア】	・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。【C 読むこと(1)ア】 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。【C 読むこと(1)オ】	・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

6. 本単元で取り組む言語活動

筆者の書きぶりに注目して批評文を書こう。

7. 単 元 の 評 価 規 準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 ((2)ア) ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	・事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。【C 読むこと(1)ア】 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。【C 読むこと(1)オ】	・粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことをまとめたり、伝え合おうとしたりしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、第4学年の説明文の学習において要約する学習をくり返し行ってきた。説明文の要約では、文章の構成(双括型)や筆者の書きぶり、題名に注目して読むことを意識させ、キーワードを見つけることを訓練してきた。また、「世界にほこる和紙」の学習では、筆者が本当に伝えたいことが「事実」と「思い」のどちらに書かれてあるのかを考え、意見を交流する中で、「思い」の部分が重要であると気づくことができた。これらの経験が、本単元のねらいの一つである「要旨を捉えること」に活かされると考えられる。

学級の様子として、自分の考えや疑問に感じたことをよく言葉にし、友だちの意見に対してもよく反応する。考える際も、一人で取り組むより、友だちと交流することを選択する児童が多い。しかし、いざ「書く」となると、自分の考えを深めたり自分の経験と重ね合わせたりしながら書くことに課題が見られ、全体やペアで交流したことを自己の学びに活かしきれていないことが現状である。これは国語科に限ったことではなく、道徳科などにおいても同じような課題が見られる。児童が書いたふりかえりを見ると、具体性やエピソードが欠けているように感じている。これらの手立てとして、友だちの考えと比べたり書くことへの意欲を高めたりするという目的で、ロイロノートを活用した。しかし、時間がかかってしまうことに加えて、操作に気がとられ、集中が途切れることなどにより、内容がさらに薄くなるという課題点も見つかった。そのため、本単元では自分の考えをまとめたり、ふりかえりを書いたりする際には紙のノートを中心に活用し、基本的な書く力の向上を図りたい。

この単元をきっかけに、筆者の考えや論の進め方に対する自分なりの考えや疑問をもち、書き表す力を育てたい。そして、難しいと思われる読み物教材に出会っても、途中で立ち止まらずに最後まで読んでみようとする精神を育む土台となることを願う。

(2) 教材観

子どもたちは「要旨」について本単元で初めて知ることになる。本単元の大きなねらいは「要旨」を捉え、それに対する自分の考えをもつことである。三教材で構成されており、練習教材「見立てる」と本教材「言葉の意味が分かること」は、文化や言葉に表れたものの見方の特徴について述べている。また、両教材ともに双括型の文章構成となっていることや「原因と結果」などの情報の関連が見られることに共通点がある。そのため、練習教材「見立てる」で説明文の構成について復習し、5年生で初めて学習する「原因と結果」の見つけ方や「要旨」の捉え方をしっかりとおさえたい。そして、本教材「言葉の意味が分かること」では、練習教材での学習を活かし「要旨」を捉えていく。さらに、三教材目の「原因と結果」では、情報の捉え方を確認するという流れになっている。

第4学年で学習した「思いやりのデザイン」や「アップとルーズで伝える」は、本単位と同じように練習教材と本教材の構成になっている。また、両教材とも双括型の説明文であり、主張と理由・事例の関係に注目して読んだり、段落相互の関係を考えたりする活動を通し、筆者の書きぶりの工夫を見つけてきた。これらの経験から、本単元で扱う二教材が双括型であることには容易に気づき、大まかな文章構成の理解ができるであろう。「要旨」を捉えるために構成をきちんと理解した上で、事例や理由、論の展開などに注目して読み進めていく。

また、筆者の独特な言い回しを理解することも重要である。例えば「言葉の意味に広がりがある」「言葉の意味のはんい」「言葉の意味を点や面としてとらえる」などが挙げられるが、これらの言葉は文中で丁寧に説明されているので、その意味をしっかりと押さえ、言い換えられているそれぞれの言葉がどう結びついているのかにも

注目する。

分からない表現があっても立ち止まらずに読み進めていくと、その後に解説がある。こうした文章の読み方に徐々に慣れ、情報を正確に読み取る力や読み取ったことを生活に活かす力を育みたい。また、本教材は日本語と外国語の言葉の相違点なども挙げられていることから、第5学年から始まる外国語科への興味や関心を育むきっかけとしたい。

(3)指導観

本単元では「要旨を捉え、自分の考えを伝え合うこと」を大きな目標としている。その達成に向けて今年度の研究テーマ「問いづくりから始める単元づくり」「分からんベースの授業づくり」を基に、指導計画を立ててきた。

第二次で扱う本教材「言葉の意味が分かること」では、内容面の理解に苦しむ児童が多いと予想される。書くことに課題のある児童が多い中、理解しにくい内容について自分の考えを書くことは、かなり難易度が高い。そこで、最初にレビュー(批評文)を書こうと提示し、この説明文の評価を星(☆)の数で表させる。筆者の書き方の「どこが」「何が」分からないのか「なぜ」分からないのかを整理し、自分の考えをもつための手立てとする。レビューを書くことについては、第4学年の「アップとルーズで伝える」や第5学年の練習教材「見立てる」で経験しているので、スムーズに取り組めると思われる。そして、それぞれが書いたレビューを基に交流することで「問い」をもち、分かるようになるための作戦会議へと繋げていく。

第5学年で学習した最初の物語「銀色の裏地」では、主人公の言動で理解できないところを問うと、活発に意見交流をすることができた。日頃から発言や反応が活発な学級ではあるが、分からないことについて話すと、さらに意見を言いやすくなることを改めて実感した。

子どもたちの実態として、「分からないこと」が「分かるようになる」ために、何が必要なのか探しながら学びを深めてきた経験が少ない。そのため、算数科などの他教科で解決に向かうときのことを想起させ、事例をかえたり、絵や図を使ったりして考えるという意見を引き出したい。また、事例の内容や数が適切かどうかに関し疑問をもつ児童がいると予想されるため、他の事例を考えたり、原因と結果を整理したりする中で、筆者の書きぶりのくふうについても、自分の考えを形成させていきたい。さらに、「点」や「面」など、筆者特有の表現についても触れながら、内容面の理解を深めていく。それぞれの取り組みの交流を経て、「要旨」をまとめる活動に入る。その中で、「要旨」を捉えることは自分の考えを形成するための手段であるという、要旨を捉えることの良さや大切さに気づかせたい。

第三次では、もう一度レビューを書かせ、第二次で書いたレビューと比べる。自分の考えがどのように変わったり深まったりしたのかをふりかえり、今後の説明文の読み方や書き方へと繋げていきたい。

9. 単元の指導と評価の計画(全10時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	2	・「見立てる」を読み、文章の構成を捉える。 ・文章の要旨を150字程度でまとめ、レビューを書く。	○	◎	○ ○	・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 (発言・記述)【知】 ・文章全体の構成や事例について考え、要旨を捉えている。

						(記述)【思・判・表】
2	6	・「言葉の意味が分かること」を読み、文章の大まかな構成を確認し、学習の見通しをもつ。 ・レビューを書く。	○		○	・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(発言・記述)【知】
		・レビューから問いをつくり、学習の作戦会議をする。【本時】		○	○	・筆者の考えや論の展開に対する自分の考えをまとめようとしている。(記述)【態】
		・分かるための手立てを考え、取り組む。(文章の構成を捉え直す、筆者の書きぶり、事例、原因と結果、独特な言い回しなど)	◎	◎	○	・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(発言・記述)【知】
		・要旨を 150 字以内でまとめる。		◎	○	・文章全体の構成を捉えて要旨を把握しようとしている。(発言)【態】 ・「言葉の意味が分かること」について、文章全体の構成を捉えて筆者の要旨を把握している。(記述)【思・判・表】
3	2	・レビューを書く。 ・レビューを交流し、単元をふりかえる。		◎	◎	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(記述)【思・判・表】
				○	○	・筆者の考えや論の展開に対する自分の考えをまとめようとしている。(記述)【態】

10. 本時の展開(4/10 時間目)

(1) 本時の目標

「問い」をもち、分かるようになるために取り組みたい方法を考える。

(2) 本時の評価規準

「問い」をもち、分かるようになるために取り組みたい方法を考えようとしている。

(3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1. 前時の学習ふりかえる。 2. 本時のめあてをつかむ。		
レビューから問いをつくり、学習の作戦会議をしよう。		
3. 前時に書いたレビューを交流する。 ・ ☆何個で評価したのか ・ 分からないところ(疑問点)を中心に交流する。	●意見を出しやすくするために☆の数も発表させる。 ●分からないところ(疑問点)に焦点を当てながら板書する。 ・ 事例の内容 ・ 事例の順序、 ・ 「点」や「面」としてとらえること等	
4. 「問い」をつくり、分かるようになるための方法を考える。	●「要旨」や筆者の主張に関連するであろう「問い」にしぼって共有する。	
5. 本時をふりかえり、次時につなげる。	●友だちのレビューを聞いて共感したり考えが変わったりしたことについてまとめる。	・ 筆者の考えや論の展開に対する自分の考えをまとめようとしている。(記述)【態】

(4) 本時における具体的な児童の状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
本文から「問い」をもつことができる。また、分かるために取り組みたい方法を考えることができる。	分からなかったところを聞き取り、取り組みたい方法を、いくつか提示した中から選択できるようにする。